

記憶と思いで

高木 誠徳

ユーコン河に行こうと思ったのは、リトルトリーという本を読みその中の人々に感激したためであった。その中でてくるインディアンの人々は皆純朴で家族や友人思いで、たくましく、日本とは異なる文化の中で、動物や自然とともに生活していた。そんな人々に会いたい、直に接してみたいと思ったからだ。しかしそこには既に純粋なリトルトリーの世界はなく、アメリカナイズされた別の世界があった。そうはいってもアラスカの自然には悠久の流れを感じさせるものがあり、時間が止まっているような錯覚を感じさせるようなものがあった。

この合宿中に考えていたことの一つに「思いで」という言葉についての事があるが、思い出という言葉の辞書で引くと「前にあったことなどが心に浮かんで来ること。また、その材料となる事柄。」だそうだが、それでは「記憶」と「思いで」はどう違うのだろうか。それは多分「記憶」には感情が伴わず、「思いで」にはそれが伴う点ではないだろうか。そう考えると、ユーコン河での3か月余に及ぶ今回の合宿は、良かったことや嫌だったことを含め間違いなく「思いで」になる事だろう。

